

## 令和4年度 学校評価報告書（目標設定）

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>①生徒自ら課題を設定し、課題解決に向けて主体的に探究することができる生徒の育成を図る</p> <p>②グローバル化が進む社会で活躍できる生徒の資質・能力の育成を図る。</p>	<p>①生徒が ICT 機器を活用して主体的に学習に取り組める環境整備・拡充に努める。 ・新教育課程における3年次選択科目の履修方法等について検討する。</p> <p>②グローバル人材として、生徒に身につけさせたい資質・能力を明確にし、グローバル教育の機会の充実を図る。</p>	<p>①・ICT 推進WGを中心に ICT 機器の利活用に向けて施設面での問題解決を図る。 ・教務・情報Gが3年次選択科目の履修方法等について各教科と連絡を密にとりながら原案の取りまとめを行う。</p> <p>②講演会や海外学校の学生との交流など、各教科や総合的な探究の時間、行事などの時間を活用して生徒の資質・能力の育成を図る。</p>	<p>①・ICT 推進WGを中心に ICT 機器の利活用に向けて施設面での問題解決を図ることができたか。 ・教務・情報Gが3年次選択科目の履修方法等について各教科と連絡を密にとりながら原案の取りまとめを行うことができたか。</p> <p>②講演会や海外学校の学生との交流など、各教科や総合的な探究の時間、行事などの時間を活用して生徒の資質・能力の育成を図れたか。</p>
2	生徒指導・支援	<p>①豊かな人間性やコミュニケーション能力、主体的に行動できる人格の育成を図る。</p> <p>②生徒一人ひとりの適切な理解に基づく生徒支援体制と教育・健康相談の充実を図る。</p>	<p>①生徒が主体的に活動し、新たなアイデアを実現できるよう学校行事や委員会を支援する。</p> <p>②学年・グループ・学校運営の各場面で生徒情報を共有し、生徒理解に努める。また、感染症対策について引き続き安全面に留意して生徒の学校活動をサポートする。</p>	<p>①生徒が主体的に学校行事を企画し活動できるよう、委員長等を中心に委員会が運営できるように支援する。</p> <p>②課題のある生徒については全職員に周知し協力体制を作れるよう、細かく情報交換を行う。健康に関する情報を定期的に発信したり、委員会活動を通じて生徒自身が正しい知識を得ようサポートする。</p>	<p>①生徒主体で学校行事を企画し、生徒が主体的に活動できる場面が増えたか。</p> <p>②課題のある生徒に対して情報を共有し、必要であれば外部と連携する等、適切な生徒支援ができたか。また、健康観察等を通じて実態を把握し、学級通信や「ほけんだより」などで、健康的な生活のサポートができたか。</p>
3	進路指導・支援	<p>①生徒自らが進路を開拓・選択する力を培うとともに、第一希望の実現をサポートする。</p>	<p>3年間を見通した進路指導計画に則り、組織的な進路指導を行い、生徒が自ら希望する進路を見出し、その希望する進路を実現するための手立てを実践する。</p>	<p>①卒業生の話を聞く会や各種講演会などを通して、キャリア教育の充実を図る。</p> <p>②Hi-ゼミにおいてハイレベルな学習スキルを養い、応用力の育成を図るなどより一層の充実を図る。また、外部模試において全員受験模試の他、希望型模試の参加の意義を唱え生徒を増やすことで実践力の向上を図る。</p>	<p>①入学時よりも社会的職業的自立のために必要な応力が身についたと思う生徒の割合が80%を超えたか。</p> <p>②校内模試において国数英の学年平均偏差値が55を超えたか。また、国数英全体の偏差値60を超える生徒が、各学年50名以上になったか。受験結果において、国公立大学現役合格者40名以上、早慶上理35名以上、GMARCH160名以上を達成できたか。</p>
4	地域等との協働	<p>①PTAや地域との連携事業を推進し、地域とともにある学校づくりを推進する。</p>	<p>PTAとの交流・連携事業は新たな取り組みについて地域の意見を伺いながら検討を続け、地域とともにある学校づくりを推進する。地域貢献活動や地域の他の学校との交流を一層推進する。</p>	<p>コロナ禍におけるPTA活動の新しい形態での実施を促進する一方で、体育祭、文化祭、交流活動、PTAボランティア活動などの既存の活動を活性化させる。</p>	<p>コロナ禍におけるPTA活動の新しい形態での実施を促進できたか。体育祭、文化祭、交流活動、PTAボランティア活動などの既存の活動を活性化できたか。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>①大規模災害に備え、職員・生徒が協力して行動できる体制を整える。</p> <p>②生徒と向き合う時間を確保するため、教員の働き方改革を推進する。</p>	<p>①大規模災害に備え、防災マニュアルを見直す。職員・生徒が協力して行動できる体制を整備する。</p> <p>②教員の業務分担や勤務時間を把握し、業務の均文化とスリム化、透明化を促進する。</p>	<p>①・大地震を想定して、生徒自身が避難することができるか、また、危険箇所が認識できているか。 ・横浜市との協定細則に基づく避難所運営のマニュアルを整備する。</p> <p>②勤務時間管理システムの活用やこまめな声掛けにより時間外労働時間の減少を図る。</p>	<p>①・生徒自身が、避難経路および周辺の危険箇所を理解できたか。 ・補助的避難所の避難所運営マニュアルを教員に周知できたか。</p> <p>②ストレスチェックにおいて満足度、充実度の高い教員の割合が80%を超えているか。</p>